

氏名	加藤 諒
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5 6 7 4 号
学位授与の日付	平成30年3月23日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Evaluation of the upper gastrointestinal tract in patients with ulcerative colitis (潰瘍性大腸炎患者における上部消化管病変の検討)
論文審査委員	教授 藤原俊義 教授 八木孝仁 教授 柳井広之

学位論文内容の要旨

潰瘍性大腸炎（以下 UC）は大腸病変以外にも関節炎や皮膚症状などをきたす全身性炎症疾患としての側面をもち、近年その上部消化管病変の報告が増えている。今回我々は上部消化管内視鏡（以下 EGD）検査歴がある UC 患者を対象として、上部消化管病変に関する検討を行った。2008 年 4 月 1 日から 2016 年 3 月 30 日までに当科通院歴があり、EGD 検査を少なくとも一度施行されている UC 患者を対象とし、上部消化管病変のある群とない群に分け、比較検討を行った。対象となった患者は全 216 例（男性 115 例、女性 101 例）で、そのうち 42 例（19.4%）に上部消化管病変が認められた。年齢や罹病期間、UC の病型、検査時症状の有無に両群間の有意差は認められなかった。また、上部消化管病変のある群において、腸管外合併症、手術歴のある患者の割合が有意に高かった（いずれも $p < 0.05$ ）。

論文審査結果の要旨

本研究は、潰瘍性大腸炎患者を対象として、上部消化管内視鏡検査で指摘された上部消化管病変の患者背景、内視鏡的・病理学的特徴などを検討し、上部消化管検査を施行すべき患者集団を特定する方法を確立しようとした後方視的臨床研究である。

全症例 216 例のうち、42 例（19.4%）に上部消化管病変がみられ、年齢や潰瘍性大腸炎の病型、症状の有無などは明らかな関連はみられなかったが、腸管外合併症や手術歴がある患者には有意に上部消化管病変を有するものが多かった。

本研究は、腸管外合併症や手術歴を持つ潰瘍性大腸炎患者では、積極的に上部消化管内視鏡検査を行うことを推奨すべきことを示した点で、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。